

CONTENTS

▼土木のはなし

▽これも土木

・「これも土木」を発見する話（1）：野村吉春

▼フレンズコーナー

・伊吹せんろみち
：雲林院ゆみ

▼事務局通信

シビルNPO連携プラットフォーム／since2014

CNCNP通信

VOL.114／2023.10.5

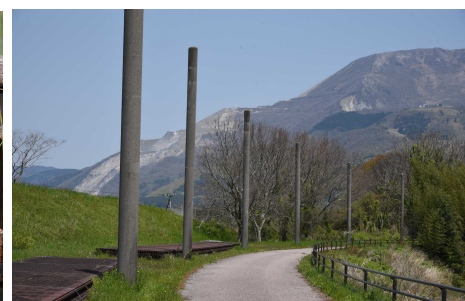
■今月の土木■



●手前は天井川下のトンネル・奥は国道下のトンネル



●脇に置かれた当時のレール



●(元)架線柱と伊吹山

■伊吹せんろみち（住友大阪セメント廃線跡）

昭和27年（1952年）に、近江長岡駅と住友大阪セメント伊吹工場
の間に敷設された3.7kmの貨物線（大阪セメントの専用線）で、平成
11年（1999年）に廃線になった後、遊歩道として整備されて、約
2.5kmの「伊吹せんろみち」となりました。途中、R365の下をトン
ネルが通ります。トンネル自体は普通ですが、R365は明治時代の東
海道線（官設鉄道）の廃線跡で、“せんろみち”も廃線跡で、「廃線
跡の下をくぐる廃線跡のトンネル」になります。廃線マニアには萌え
ポイントでしょ？（土木遺産の女：雲林院ゆみ）

<https://www.youtube.com/watch?v=5SRPLHfkGI4>

▼フレンズコーナーに続く。



▼土木のはなし/これも土木

「これも土木」を発見する話（1）

（特非）シビルNPO 連携プラットフォーム 理事
NPO法人州都広島を実現する会 事務局長

野村 吉春



■はじめに

「これも土木」は、前号の「お城における土木の話（3）」まで紹介されてきたところで、少し早いのですが、ちょっと休憩を入れる感じで、今回は「そもそも論」を挟んでみようと思います。

筆者は、常日頃から「土木というモノ、あるいはコト」が、どうも小さくて狭い範囲で捉えられていることに不満を抱いていました。そこに、タイミングよく「これも土木」への執筆依頼が入り、「すわ、書かん！」と意気込むも、「土木」という余りの広がり、何処から手を付けようかと悩んでしまいました。

■VUCA の時代

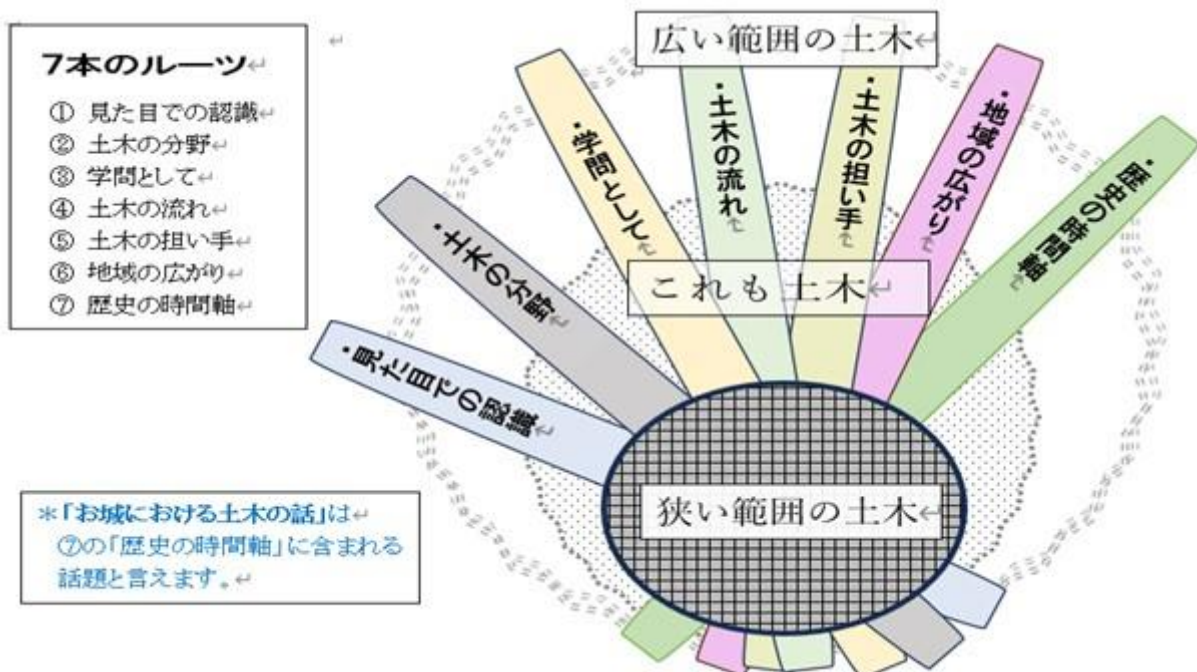
VUCAとは、今、はやりの現代用語で、社会やビジネスにとって、未来の予測が難しくなる状況のことで、「Volatility：変動性」、「Uncertainty：不確実性」、「Complexity：複雑性」、「Ambiguity：曖昧性」の4つの単語の頭文字をとった造語であると説明されています。

今や日本の未来も、世界情勢も、我々の土木界も、この先々が非常に不透明な状況に置かれています。そこで筆者は、そんな恐怖に怯える代わりに、むしろ「これも土木」という、従来の土木に新たな領域を見出す、そんな「土木のお宝探し」という乗りで捉えました。

■お宝探しへのルーツ

つまり、今回の第一話は、「これも土木というお宝探しのルーツ」を皆さまと一緒に考えたいという話です。幕末の坂本龍馬の名句にならえば、そのルーツは何十本でもあるだろうと思いますが、ここでは下図に示すような「7本のルーツ」に着目し、これを掘り下げることにしました。

この図を見ながら、皆様と「狭い土木⇄広い土木」の世界を描いてみたいと思います。



■ お宝発見へのガイダンス

「これも土木」へのお宝の発見に向けた「7本のルーツ」を簡単に説明します。今回はガイダンスなので、（読者各位には大変じれったいかも知れませんが・・・）具体的な「お宝の発見」は、次回以降のお楽しみとします。この表は「太字の拾い読み」で構いません。

ルーツの代表例	お宝探し発見へのガイダンス
① 見た目での認識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大多数の一般市民が見た目で「これが土木」と認識しているイメージを、まずは一旦冷静に受け止めておくことが重要ですね。 ・ そのうえで、見た目で「これが土木」とは、必ずしも思われていないモノやコトへの発見も、面白いのではないのでしょうか。
② 土木の分野	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「土木や建築」は一般に「工学系」の分野と認識されています。 ・ その分類は、技術士法では「建設部門」に分類され、11の科目が定められていますが、普通の一般市民は知るよしもなく、建築分野の「一級建築士」に比べて、市民には「技術士」の知名度が低いですね。 ・ 例えば、「建設部門」に定められた11の科目を、つぶさに見ていくと、市民には余り認識されない「これも土木」が、見つかるでしょう。
③ 学問として	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学受験には「文系と理系」という選択があり、「土木や建築」は「理系」のうち、文科省の11学部の分類の「工学部」に含まれます。 ・ しかし、未来へのVUCAの時代を想定するなら、例えば「土木」という学問を、次の3つの連携と広がりで見えては如何でしょうか。 ・ 1つ目は「工学の連携」・・・まず「工学部」の中で、今を時めくICT、ロボテックス、情報通信、環境、エネルギー、バイオ・・・等々との。 ・ 2つ目は「理系との関係」・・・「理系」の中でも、例えば地理学、気象学、地球科学、自然科学、生態学、生命科学、細菌・医学・・・等々との。 ・ 3つ目は「文理融合」・・・「文系」とされる中で、政治、経済、情報、教育、文化・・・等々の「文系との広範な関係」を重視したい。
④ 土木の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大枠として「上下分離」という問題意識に着目したい。土木は、社会基盤＝下部構造（Infra Structure）という位置づけ、その上部構造（Supra Structure）つまり活用・運営。更に上の企画・構想（Super Architect）は如何だろう。 ・ インフラという下部構造だけを捉えても、調査、計画、設計、施工、維持・管理、更新という・・・これらの事業の連続性は如何だろうか。
⑤ 土木の担い手	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土木の担い手は、上記の④をどのような分野・業界の人が担っているか？そこに着目すれば「市民社会に果たすべき役割」が適切だろうか。
⑥ 地域の広がり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内閣府の調査によれば、一般の市民の「地域への関心」は概ね市町の範囲内とされる。行政や議会も同様な範囲に限定される。 ・ しかし、今日の市民社会の活動範囲は、非常に広域展開されている。 ・ 広域行政は国や都道府県が担当だが、これは選挙区制度なども関連し複雑。「土木と市民社会のつながり」が真っ当に機能しているだろうか。 ・ 近未来の「人口半減国家」に向けて、更に重要な問題となる。
⑦ 歴史の時間軸	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国家統一に向け飛鳥時代には、既に立派な土木が営まれ、道路は高速通信網として整備された。土木の歴史は江戸時代、明治、戦後へ繋がる。 ・ 近未来の土木にも、飛躍的な発展と展開が期待される。

このガイダンスを見て、読者の皆様も「これも土木」について、何かひらめいたでしょうか？ 次回からは、具体的に「これも土木」というお宝の発見を幾つか例示します。

以上

▼フレンズコーナー：土木遺産

伊吹せんろみち

～米原市春照/住友大阪セメント廃線跡～

NTT ビジネスソリューションズ
雲林院 ゆみ

1. 絶景の中で、廃線跡を散策してみませんか？

今回ご紹介するのは、米原市春照の「伊吹せんろみち」。

ここには1952（昭和27）～1999（平成11）年の間、住友大阪セメントが機関車で資材を運ぶ、専用線が通っていました。線路が敷かれ蒸気機関車・電気機関車が通っていましたが、時代の流れとともに廃線に。役目を終えた線路は、地域発展の歴史を次の世代に受け継ぐために、住民参加型で、親子で遊べるサイクリング&ウォーキング遊歩道として整備されました。

約2.5kmの道の間は、2本のトンネル、当時の架線柱・橋梁跡・撤去されたレール・枕木・ホッパー跡など、見どころだらけ！伊吹山をのぞむ美しい景色の中、安全に整備された道で貴重な遺構に触れられる、鉄道ファンなら要チェックのスポットです。是非、本稿と併せて、下記の動画を見てみてください。

<https://www.webaminchu.jp/news/7434/>



2. 所在地

JR 東海道本線の近江長岡駅より少し北へ、伊吹建設工業（米原市村木 756）付近の県道 244 から脇に入った所からスタートです。すぐに東海道新幹線の高架下をくぐり、その先県道 551 を横断し、国道 365 と弥高川をくぐり、伊吹薬草の里（米原市春照 37）付近まで伸びます。薬草の里の横にゴール地点となる線路と駅舎モニュメントが建っています。その先には滋賀鉱産の砕石出荷場があり、その付近に住友大阪セメント伊吹工場跡が広がります。



3. 鉄道遺構

1) 鉄道橋梁

スタート地点には橋が残っていて、そこを渡って行きます。主桁フランジにレールが飾られています。ウェブの内側には「大阪窯業セメント株式会社 1960年」と書かれた銘板が付いたままです。



2) その他の遺構

電気設備？信号？の BOX、ホッパー跡、枕木、レール、さらに架線柱も当時のまま何本も残されています。

工場ができた当初は蒸気機関車が活躍しましたが、ディーゼル機関車になり、昭和 31 年（1956 年）に電化され、電気機関車いぶき 501・502 号が走っていました。



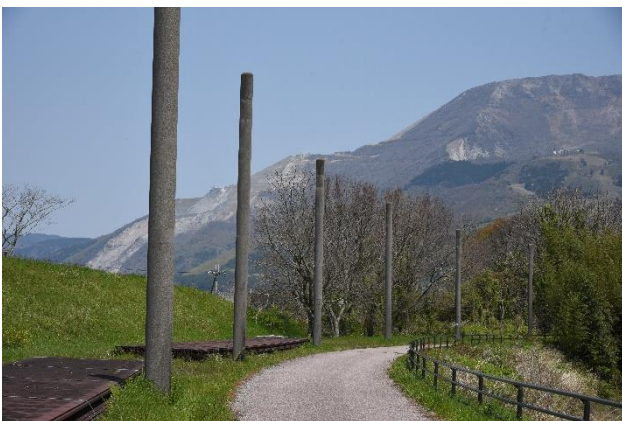
ホッパー跡



枕木



レール



当時のまま立っている架線柱（奥の山は伊吹山）

3) トンネル①②

今は国道の（官設）廃線跡と天井川をくぐる（専用線）廃線跡のトンネルというマニア的には面白い場所です。トンネルはコンクリートにて補修されているのが分かりますが、擁壁はそのままの姿で残っているようです。



トンネル①：国道 365（初代東海道本線の廃線跡）の下をくぐる



トンネル②：弥高川の下をくぐる

4) 終点の駅舎

終点には、駅舎風の休憩所が整備されています。公益財団が運営する「伊吹薬草の里文化センター」の一角になります。



レールと駅舎モニュメント



レールは当時のものかも??

■シリーズ「土木遺産の女」

滋賀県内各地に残る魅力的な土木構造物を、土木構造物大好きくものすけ副隊長がご紹介しています！

<https://www.webaminchu.jp/news/?feature=civilianheritage-woman>

■「伊吹せんろみち」の命名

米原市は、この廃線敷を遊歩道としてリニューアルした際に、愛称を募集したところ市内外から 100 点もの応募がありました。その中の最優秀作：坂田小学校 1 年生の作品です。

CNCPは、
あなたが参加し、
楽しく議論し、
活動する場です！

お問い合わせは下記まで

特定非営利活動法人
シビルNPO
連携プラット
フォーム

●登録事務所
〒101-0054
東京都千代田区神田錦町
3丁目13番地7
名古屋ビル本館2階
コム・ブレイン内

●連絡事務所
〒110-0004
東京都台東区下谷
1丁目11番15号
ソレイユ入谷9F

事務局長 田中努：
cncp.office@gmail.com
ホームページ URL：
<https://npo-cncp.org/>



▼事務局通信

■9月の予定

●第113回経営会議

開催日・場所：9月12日（火）Zoom会議
議題：総会の確認／各事業の進ちょくと予定

■10月の予定

●令和5年度通常総会

開催日・場所：10月3日（火）土木学会講堂
議題：R4年度事業報告/R4年度決算報告/R5年度事業
計画

●第114回経営会議

開催日・場所：10月10日（火）Zoom会議
議題：各事業の進ちょくと予定

■現在の会員と仲間の数

- 会員：賛助会員30／法人正会員10／個人正会員26
／合計66
- 仲間：サポーター107／フレンズ120／土木と市民
社会をつなぐフォーラム15／インフラパートナー18
／合計260

●CNCPの活動には下記の賛助会員の皆さまのご支援をいただ
いています（50音順・株式会社等省略）。

アイ・エス・エス／アイセイ／安藤・間／エイト日本技術開発
／エヌシーイー／奥村組／オリエンタルコンサルタンツ／ガイ
アート／熊谷組／建設技術研究所／五洋建設／佐藤工業／シン
ワ技研コンサルタント／スバル興業／セリオス／第一復建／竹
中土木／鉄建建設／東亜建設工業／東急建設／ドーコン／飛島
建設／土木学会／西松建設／日本工営／パシフィックコンサル
タンツ／フジタ／復建エンジニアリング／復建調査設計／前田
建設工業（以上30社）



土木と市民社会を
つなぐフォーラム



インフラパートナー
JSCE 土木学会